

# たび重なる津波被害を防ぐため 防波堤の整備で地域を防衛

す さ き  
file03 **須崎港**

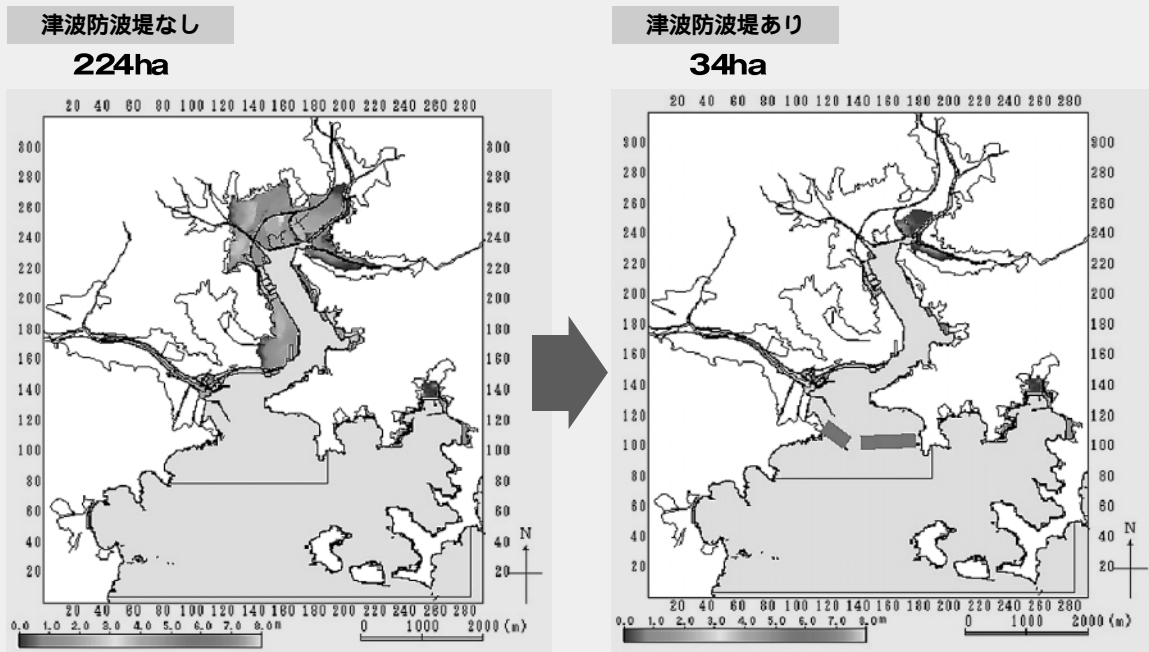
対象施設 湾口地区津波防波堤  
供用 平成20年代前半完成

高知県の須崎港は昭和40年に重要港湾に指定され、石灰石、セメント、木材等を取り扱い、県最大の貨物量を誇る港として発展してきたが、過去にたびたび津波による甚大な被害を被ってきた。そのため昭和58年に、港内の静穏度の確保と恒久的な津波対策として湾口地区に防波堤が計画された。平成3年に現地着工し、全体計画1,420mを平成20年代前半に完成させるべく重点整備を行っている。

須崎港の場合、想定津波での浸水面積が、防波堤なし（昭和57年地形）の場合224ha、防波堤あり（完成地形）の場合34haとなる。また、設計外力以上の場合は、陸域での浸水はまぬがれないが、浸水域の低減、浸水開始時間の遅延、流速の低減、等の効果がある。



●想定津波での浸水面積



第2部  
個別港湾事例

●昭和21年昭和南海地震津波来襲状況



写真提供：須崎市